

授業実践のひろば

生活設計に必要な金銭資源についての授業の試み

— 高校生の進路選択に焦点をあてて —

仲田 郁子

千葉県立流山おおたかの森高等学校

日本家庭科教育学会誌, 61(1): 33-36, 2018

1. はじめに

生活設計を構成する領域は、藤田(2001)によれば、大きく分けて①将来どのような生活を送りたいかを考えるライフデザインの領域、②金銭やネットワークなどの生活資源を確認し、必要な行動を考える生活資源とその管理の領域、③リスクを確認し対策を行う生活リスクとその管理の領域の3つに分けることができ、それぞれの領域は密接に関係しあっていると考えられる。

高校家庭科の生活設計において、これらの3つの領域を相互に関連させながら学習を進めることにより、高校生がより積極的な目的意識を持って生活設計に取り組めると考え、これまでにこれらの領域を密接に関連させる生活設計の授業モデルを考案し、実践を積み重ねてきた。

その中で、生活資源のひとつとして金銭資源に注目し、一連の生活設計の学習の中に、金銭資源とその管理を位置づけることを試みた。ライフイベントから考える金銭資源の学習として、①生活設計において、ライフイベントや生活リスクなどの経済的な視点から人の一生を検討し、②さまざまな金銭資源について理解を深め、③自分のライフデザインとの関係で、必要な資金準備について考えることを目標とした授業に取り組んでみた。

その結果、ライフイベントから学習を始めると、生徒が興味を持ちやすく、経済的な視点から人の

一生を見つめさせることには効果があると思われたが、保険については多くの種類があり、高校生にはわかりにくいようだった。

また、ローンについては、できるだけ頼りたくないとする生徒が多く、マイナスイメージが強いことが明らかになった。メリット・デメリットを取り上げて、ライフデザインとの関係で利用しなければならない場合を想定し、安易に借りるのではなく熟考して意思決定するように指導する必要があると思われた。

これらの結果から、次の3点すなわち、①金銭資源準備の計画を生活設計の学習として位置付けること、②保険について、指導法を検討すること、③ローンなどの借入金のメリット・デメリットを取り上げて、自分のライフデザインと合わせて利用の仕方を考えさせることが、重要な課題であると考えた。

そこで、今回新たな取り組みとして、ローンなどの借入金に注目し、「進学」を資金準備の必要なライフイベントとして設定して、ライフデザイン(すなわち大学進学)、生活資源(すなわち金銭資源としての教育ローンなど)、リスクマネジメント(すなわち借金を背負うこと、利息の返済など)を組み合わせた授業を計画・実施したので、報告したい。

2. 授業実践

(1) 授業の計画

今回の授業は、「進学」を資金準備の必要なライフイベントとして設定し、高校卒業時の進路選

仲田：生活設計に必要な金銭資源についての授業の試み

択について、金銭資源との関係を軸にして、設定された3つの選択肢の長所と短所を検討すること、そして自分の希望するライフコースのために必要な金銭資源とその準備について考えることを目的とした。

本校は、千葉県流山市中部に位置する普通科と国際コミュニケーション科を持つ、全日制男女共学校である。2008年に市内の2つの高校が統合され、新しくスタートした。生徒は地元流山市を始め、近隣の柏市、野田市などから通ってきており、部活動も盛んである。生徒の多くは素直でまじめに学習に取り組み、進学希望者が多い。

対象生徒は、普通科2年生212名、科目は家庭基礎、教科書は「家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍)」、実施時期は2017年2月である。

単元の指導計画は表1の通りである。1回は2時間なので、本授業は5回目、9時間目、10時間目となる。

表1 単元の指導計画

回数	生活設計の指導内容
(1)	人生におけるリスクと生活資源の活用 (人生すごろくの製作)
(2)	生活資源としての社会保障制度
(3)	ライフコース別の家計シミュレーション
(4)	生活設計と金銭資源 (1) ライフイベントと経済資源
(5)	生活設計と金銭資源 (2) ライフデザインと資金準備⇒本授業
(6)	ライフデザインと男女共同参画社会

1回目、2回目の授業で人生すごろくを製作し、そのまとめとして、リスク対策の2つの視点として、個人で準備することと、社会保障制度があることを確認している。どの教科書にも掲載されているライフステージと社会保障制度の図を読み取らせる形で、人生のリスクに対してどのような社会保障制度があるのか、理解させた。続いて家計シミュレーションを行った後、本時の学習に入る。

(2) 授業の展開

まず、学歴別生涯賃金、奨学金や教育ローンの実態、非正規雇用など、若者の就労の実態などの資料を提示して、その解説を行い、検討材料とし

た(表2)。

表2 事前提示資料

- | |
|------------------------------|
| ① 学歴別生涯賃金(男女別) |
| ② 教育ローン、貸与型奨学金の仕組み、借入金額と返済計画 |
| ③ 若者の就労の実態(非正規雇用の増加) |

続いて「大学に進学したいが、経済的な余裕がなく難しい」という状況を設定し、3つの選択肢を提示した。それぞれの長所短所を各自が考えた後、グループディスカッションを行った。最後に、各グループの結果発表を聞き、自分の意見をまとめさせた。

3つの選択肢は、A「大学進学をあきらめる」、B「働いて進学資金を貯めてから大学進学する」、C「教育ローンあるいは奨学金を利用する」とした。提示資料はインターネットから引用したが、希望する生徒・保護者に配布している国の教育ローンの案内はがきなども準備した。写真1はグループディスカッションをしている生徒の様子である。記録係がディスカッションの内容をまとめている。写真2は生徒が記入したワークシートである。



写真1



写真2

表3 選択肢A 大学進学はあきらめる

メリット		デメリット	
お金がかからない	164	生涯賃金が低い	124
早く自立できる	47	就職先が限られる	116
勉強しなくて済む	22	夢がかなわない	30
借金しなくて済む	20	高卒になる	27

表4 選択肢B 働いて資金を貯めてから進学する

メリット		デメリット	
借金しなくて済む	98	友人と一緒に進学できない	82
お金の心配がない	32	進学が遅れる	71
大学に行ける	28	勉強との両立が難しい	19
親に負担をかけない	25		

表5 選択肢C 教育ローン(貸与型奨学金)を借りて進学する

メリット		デメリット	
すぐに進学できる	136	借金を返済しなければならない	118
大卒で就職に有利	43	利息がかかる	72
お金の心配がない	38	将来のリスクになる	57

3. 結果

生徒の考えたそれぞれの選択肢のメリットとデメリットをまとめてみたものが、表3～5である。選択肢A「大学進学はあきらめる」のメリットは、最も多かったのが「お金がかからない」だった。続いて「早く自立できる」、「借金しなくて済む」などが挙げられた。「勉強しなくて済む」というものもあった。デメリットとしては、「生涯賃金が低くなる」、「就職先が限られる」の2つが多く挙げられ、将来の可能性が狭くなることを気にしているようだった。

続けて選択肢Bについてみると、メリットとしては、借金をしなくて済むことが挙げられた。親に負担をかけないというものもあった。デメリットで最も多かったのが、「友人と一緒に進学できない」というもので、「進学が遅れる」という答えも多く、高校卒業後すぐに進学できないことを気にする意見が多くあげられた。勉強との両立が難しいことを指摘する意見も見られた。

選択肢C「教育ローン(奨学金)を利用する」

表6 教育ローンについての生徒の意見

賛成	<ul style="list-style-type: none"> 自分の夢のためにも必要であり、大切 将来的に大学に行くことは良いことだと思うので、利用するのは良い
消極的賛成	<ul style="list-style-type: none"> 進学のためには仕方ない 奨学金は負担が重いけれど、借りることができれば安心できるし、大学にいるときは勉強に集中できる
慎重	<ul style="list-style-type: none"> デメリットもメリットもあって迷う 借金を背負った状態での社会人デビューもつらいと思う
否定的	<ul style="list-style-type: none"> 早くも借金を背負うので、奨学金は良くないと思う 卒業後に職に就けなかった時を考えると怖い
その他	<ul style="list-style-type: none"> お金がないからあきらめるのではなく、家族との話し合いも必要 利息なしや給付型の奨学金をもっと増やしてほしい

については、メリットとして「すぐに進学できる」が最も多く挙げられた。大卒の肩書が得られ、就職で有利になるという答えも挙げられている。デメリットとしては、「借金を返済しなければならないこと」「利息がかかること」「将来のリスクにつながること」が挙げられた。

実際の生徒の意見を紹介する(表6)。教育ローンについての主な賛成の意見は、自分の夢のために必要であり大切である、大学に行くことはよいことなので、奨学金は特別のことではなく普通のことだという意見が見られた。

消極的賛成の意見としては、「自分の進学のためには仕方ない」、「奨学金は負担が重いけれど、借りることができれば安心できる」などがあった。大学にいるときは勉強に集中できるという意見もあった。

続いて慎重な意見としては、教育ローンや奨学金を借りると、社会に出たときに借金がある地点からのスタートになることが挙げられた。「親には、奨学金を使わないで子どもが大学に行けるようにする義務がある」という意見は、強く印象に残った。できるだけ「貯金」しておくことが大事だという意見もあった。

否定的な意見としては、やはり借金になることを心配する意見が多く見られたが、卒業後就職できなかったら大変だという意見は、あまり多くは

なかった。

その他の意見としては、家族でよく話し合うというものや、生活設計は難しいとするものなどが挙げられていた。話し合う中で、利息無しの奨学金を増やしてほしいという意見や、返済しなくてよい給付型の奨学金を増やしてほしいという声があり、グループディスカッションの効果を感じた。

4. まとめ

「進学」は高校生にとっては大きなテーマであるが、必要な金銭資源の準備については十分に理解しているとは言えず、今回の学習は改めて考える機会になったようだった。大学進学というライフデザイン、奨学金や教育ローンという金銭資源、借金や利息の返済というリスクマネジメントをとりあげる授業は、生活設計の3つの側面について、具体的に関連付けられることが確認できた。そしてローンについて、一般論としては消極的にとらえる生徒も、進学に必要であれば利用することも選択肢の一つと受け止めていることが認められた。

奨学金や教育ローンを取り上げたので、その返済金の滞納が近年社会問題となっていることも取り上げた。重く受け止める生徒もいる一方で、多くの生徒はリスク回避よりも、大学進学という夢を追うことを肯定的にとらえる傾向が見られた。また、働いて資金を貯めてから進学するという選択肢については、ロールモデルが身近になく、イメージが持ちにくかったようだった。遅れて進学することに対する強い拒否感が見られる結果となった。

5. 今後の課題

選択肢については、本校生徒の実態を考え、さ

らに検討が必要であると思われる。また、借入れや返済についての理解を深めるために、新卒の収入と返済金の比較など、具体例を示す教材の開発を検討したい。生活設計においては、短期的な経済計画とともに長期的な経済計画が必要であり、両者は互いに関係しあっていて、長期的経済計画に基づいて短期の貯蓄や支出、借入れの計画が行われることも理解させる必要があると思われる。教育ローンの返済には卒業後長い年月がかかり、結婚して家庭を持ち、子育てをする時期になっても、その影響を大きく受けることも、知っておくべきであろう。大学に進学したいという夢の実現を目指すことと同時に、社会状況について理解を深めることで、本校生徒の実態に即したより積極的な生活設計を考えさせたい。

謝辞

本授業の実践にあたり、ご指導をいただいた千葉大学の久保桂子先生、中山節子先生に心より感謝申し上げます。

参考文献

- 独立行政法人日本学生支援機構, 2017, 日本学生支援機構の奨学金ガイド http://www.jasso.go.jp/shogakukin/oyakudachi/_icsFiles/afieldfile/2017/03/13/guide_2017.pdf
- 藤田由紀子. (2001). リスクと生活設計. 御船美智子, 上村協子(編), 現代社会の生活経営. (pp.49-61). 東京: 光生館.
- 久保桂子・仲田郁子. (2013). 女子高校生の生活設計における職業についての意識. 千葉大学教育学部研究紀要, 61, 365-371.
- 文部科学省. (2009). 高等学校学習指導要領.
- 文部科学省. (2010). 高等学校学習指導要領解説家庭編.
- 仲田郁子・久保桂子. (2012). 高校生の生活設計への積極的態度に影響を及ぼす要因と指導法の検討. 日本家庭科教育学会誌, 55(1), 25-32.